



2013～2014年度
中津平成週報
Rotary Club Of Nakatsu Heisei



2013～2014年度
国際ロータリー・テーマ
**ロータリーを 実践し
みんなに豊かな人生を**
Engage Rotary Change Lives
国際ロータリー会長
ロンD.バートン

国際ロータリー2720地区 **中津平成ロータリークラブ**

会長 土居 孝信 幹事 長野 定生 会報担当 加来 敏男 クラブ広報委員長 宇都宮 監浩

例会日/毎週木曜日 12:30
例会場/グランプラザ中津ホテル TEL 0979-24-7111
事務局/〒871-0055 中津市殿町1383の1 中津商工会館2F
TEL 0979-22-9716 FAX 0979-22-9722
e-mail office@n-heisei.org
<http://www.n-heisei.org/>



第1156回例会 平成26年3月15日 (土)

- 本日の例会プログラム 2720地区大会
- ◎次回例会プログラム ゲスト卓話「地域包括ケアシステムについて」
(社福)九州キリスト教社会福祉事業団
理事長 富永健司氏

前回(1155回例会)の記録
平成26年3月6日(木)

<p>■ゲスト 中津市消防本部救急係長 松本豊彦氏</p> <p>■ビジター</p>	<p>■出席報告</p> <p>会員数 24名 免除者数 2名 対象者数 22名 本日出席者 18名 欠席者数 4名 出席率 81.82%</p>
--	--

- 1154回出席報告の修正
1154回欠席者 9名
メイクアップ 2名
欠席者 7名
修正出席率 59.09% → **68.18%**
- メイクアップ
加来会員(中津中央RC)、土居会員(東九州龍谷)
- 欠席者
黒瀬会員、川崎会員、小野会員、出納会員、
仲本会員、矢頭会員、渡辺会員

2013-14年度 国際ロータリー第2720地区 **基本方針「ロータリーを学び、友を広げ、ロータリーを楽しもう!!」**
中津平成ロータリークラブ **スローガン「I LOVE なかつ平成ロータリー」**

◎ロータリーソング 君が代、奉仕の理想

◎会長の時間 会長 土居孝信

暦の上では啓蟄ということですが、行きつ戻りつ不安定な季候となっております。本日は、会場もいつもの会場と異なりコンパクトな例会場となっておりますが親近感を感じてこの雰囲気も良いんじゃないかと感じています。



さて、ロータリーの友2月号を皆さんもうお読みのことと思いますが、国際ロータリーの世界活動への会費が、2013年規定審議会で人頭分担金を1ドル上げることが承認されております。現段階で、RIの人頭分担金は53ドル(約5,443円)です。会費を値上げしない場合、2018年には900億ドルもの赤字となるであろうという5ヵ年財政見通しプロジェクトに基づいて、RI理事会から提案されたようです。

支出を減らさず、人頭分担金を上げる理由は、これまで実施している国際貢献を抑えることなく念入りに支出を監視し、管理し、必要なことに投資するよう専念すると説明されていま

す。

ロータリーと、他の国際的な奉仕団体との比較は難しいが、アメリカで非営利団体の格付けを行う「Charity Navigator」からはロータリー財団は最高評価である4つ星をうけたり、ビジネス慣行の改善に努める「Better Business Bureau」の慈善団体部門からロータリーが20の信頼基準をすべて満たす団体であるとの承認を受けるなど、ロータリー財団の財務的な功績は、さまざまな慈善事業の格付け機関から評価されています。

このようにロータリー活動によって国際貢献を確認するとともに当クラブの実施しているバングラデシュの図書館支援の事業を会員が身近に実感できる事業に育てていく必要性を感じています。そんな取り組みを心がけ内部充実の一端としてまいりましょう。

◎幹事報告 幹事 長野定生

- 例会変更 日出、津久見
- 週報受理 津久見





2013～2014年度

中津平成週報 Rotary Club Of Nakatsu Heisei



2013～2014年度
国際ロータリー・テーマ

ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を
Engage Rotary Change Lives

●幹事報告

- ・ロータリーの友3月号
- ・中津中央RCより4月例会プログラム
- ・地区大会案内

●理事会報告

- ・4月例会プログラム 承認
- ・新入会員の件 4月推薦状発行 7月より入会
- ・新世代奉仕事業の件 5月25日(日) 予定
- ・事務局電話工事の件

◎ニコニコボックス

【土居会長】清源会員、事務所開設おめでとうございます。
 【長野(定)幹事】言い忘れましたが、本日理事会を開催します。
 【若松会員】早退しますので。
 【黒瀬会員】今日は松本さん、卓話を宜しくお願いします。
 【清源会員】高田で弁護士事務所を開設しましたが、平成RCの例会には出席します。
 【加来会員】先々週木曜、先週木曜の2週続けて例会日に、インプラント関係の会議で東京日帰りしました。

◎ゲスト卓話

「中津市消防本部 救急の現状」

中津市消防本部救急係長 松本豊彦氏

救急車は中津管内に5台(中津市本署3台、耶馬溪柿坂分署2台)



図1は過去5年間の中津市消防本部管内の救急出動件数です。毎年右肩上がりで増加していて平成25年の出動回数は3757件でした。中津管内の職員は96名、その内の救急救命士は18名ですが、まだ足りません。救急隊員になるにはまず採用試験を受けます。合格して採用後に由布院にある大分県消防学校に入り6ヶ月間、缶詰状態で勉強し、卒業後に所属消防署に赴任します。その後10年から20年勤務してから、消防学校救急科に入り50日間、救急の基礎的知識を学ぶために缶詰状態で勉強をし、初めて救急車に乗れるようになるのです。そして2000時間、救急車に乗って初めて救急救命士になる資格ができます。救急救命士になるためには東京八王子か北九州の折尾にある研修施設でまた6ヶ月間研修します。ここには47都道府県から消防士が集まってきます。勉強内容は医学的な内容はもちろん電気ショックや止まっている心臓を再度動かすための強心剤投与、気管に挿管して酸素を送り込む行為、点滴などです。まだまだ人数が足りないので、現在は増やす努力をしています。

出動件数が右肩上がりで増加していますが、管内人口の高齢化と非適正利用がその原因と考えられる。非適正利用とは、例えば車で行けるのに車で行かない。掛かり付けの病院に薬をもらいに行くのに車が無いから救急車を呼ぶとか、足の爪が剥がれたからと呼んだり、救急車で早く診てくれて待ち時間が短いから、などの内容です。こういう内容で出動させられると、管内に5台しか救急車がないので、重傷患者や事故とか本当に救急車が必要な時に対応できなくなります。これは中津だけでなく、大分県全体でこの非適正利用が問題になっています。

図2は平成25年の出動回数3757件の内訳で、急病が2093件で一番多く、次に転院搬送(病院から病院)で730件です。この730件の中の250件が別府、大分、北九州への搬送です。今までで一番遠方の病院は熊本市の赤十字病院です。私が以前、救急車に乗っていた時、たまたま名古屋からの観光客が中津でケガをして搬送しましたが、その時に病院から名古屋まで転院搬送を依頼されて驚いたことがあります。

した。単純に計算しても800キロ以上の距離があり、その当時はナビも無いので地理も分からないし、ということでお断りしました。このようにとんでもない所への搬送を依頼されることがあります。

話は変わりますが、東日本大震災の時に中津消防本部からレスキュー隊を派遣しました。行った隊員に聞いた話ですが、被災地に行くのに片道3日かかったそうです。また救急車のボディはトラック並みに大きいのですが、燃料タンクが小さいので、目的地の福島県相馬町に着くまでに25回も給油したそうです。

相馬町で4日間活動してまた3日かけて帰って来ました。その時14名の遺体を発見したそうです。遺体の損傷が激しかったので、隊員の中にはPTSP(心的外傷)を発症した者がいました。救急の現場もそうですが、悲惨なことがあります。現場を目の当たりにすると、特に若い隊員が食欲不振や睡眠障害になることがあります。こういう心的外傷に対してサポートが必要なのですが、その対応に苦慮しています。私も最初の出動は二十歳位でしたが、5人即死の交通事故でした。凄いいショックを受けて、1週間位お肉が食べられなかったです。いまだにたまに思い出すことがあります。

図3は平成25年の中津管内のドクターヘリ出動件数の内訳です。大分県のドクターヘリは大分大学が中心になって平成24年10月に運用を開始しました。平成25年は20回搬送しましたが、それ以外に不搬送が7件ありました。その理由は天候不良、日没などです。自衛隊や警察のヘリは別ですがドクターヘリは日の出から日没までしか搬送しないのです。あと心肺停止状態の方は搬送しません。というのはヘリの中は狭くて人工呼吸や心臓マッサージができないからです。ドクターヘリとは別に大分県防災ヘリがあります。一昨年7月の大分県北部西部大豪雨時に濁流で孤立した方の救助で活躍しました。ドクターヘリや防災ヘリも飛ばない時は、大分大学附属病院のドクターカーが別府にありますので、それを現場に呼んで処置をしてもらいます。

救急車出動には2パターン有り、単独の出動と消防車と一緒にの出動があります。心肺停止の時はマンパワーが必要なので、消防車で一緒に行きます。交通事故の時はレスキュー隊が事故車から助け出すために一緒に出動します。

最後に救急車の非適正利用の防止をお願いして私のお話を終わりたいと思います。

図1

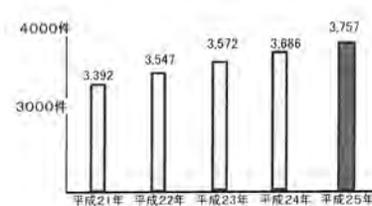


図2



図3

